

8-9 トリガ

トリガは、更新／挿入／削除などの処理をトリガ（引き金）として発動するものである。

8-9-1 トリガの作成

Query Editor Query History

```
1 drop table tbl;
2 create table tbl (c1 int, c2 text, c3 text);
3
```

ユーザー定義関数（プロシージャ）は、8-12 関数とプロシージャで作成するため下記のコマンドは正しいが、実行結果は出力されない。

Query Editor Query History

```
1 create trigger trg_1 after update or insert on tbl for each row
2 execute procedure trg_f();
3
```

tblへのINSERTとUPDATEの処理後に、行ごとにトリガを発動する。

Query Editor Query History

```
1 create trigger trg_w after update of c1 on tbl for each row
2 when (old.c1 is distinct from new.c1)
3 execute procedure trg_f();
```

tblのc1列の値を実際に変更したUPDATEの処理後に、行ごとにトリガを発動する。

2行目は、「更新前と更新後のデータが同じでない場合（実際に変更されている）」という条件を加えている。

更新の前後：「Before」もしくは「After」

更新の種類：「or」で複数指定可

更新列：updateの場合のみ「of」で指定可

発動する単位：行ごと「ROW」、SQLごと「STATEMENT」

更新の確認：insertは「NEW」、deleteは「OLD」、updateは「NEW・OLD」